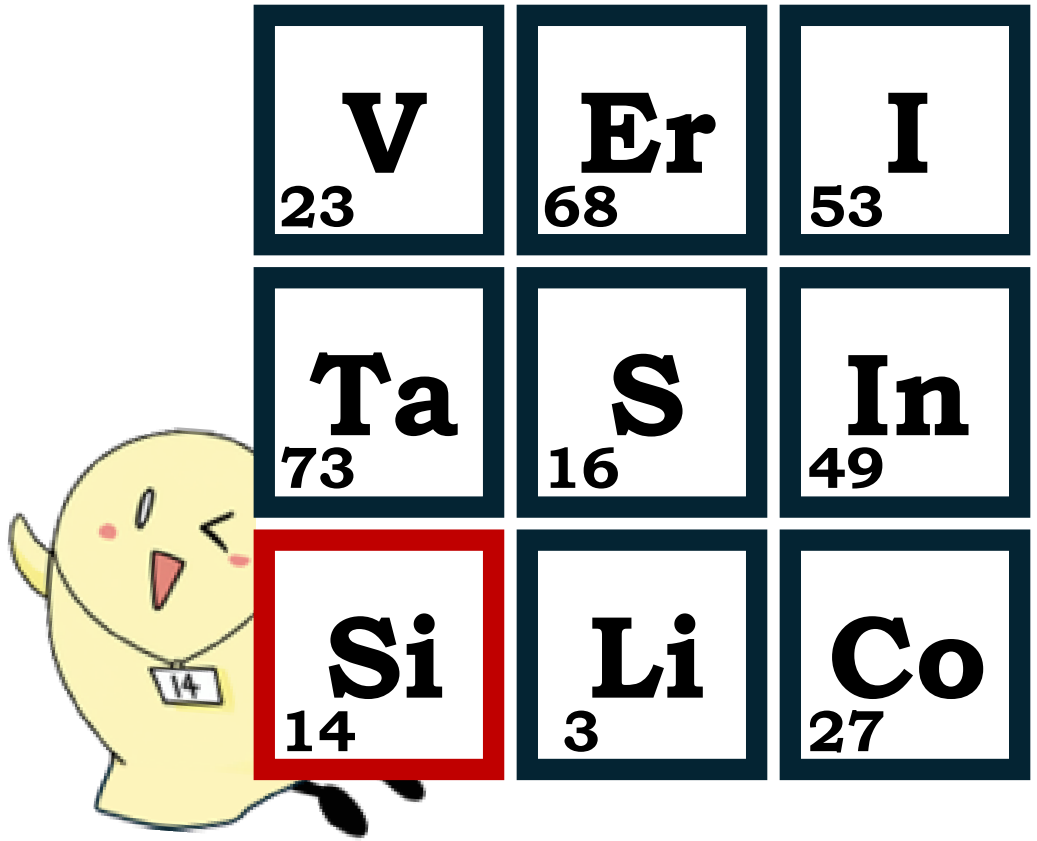
Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2026年12月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社 Veritas In Silico
証券コード：130A

2026年11月11日



2026年12月期 第3四半期　エグゼクティブサマリー

プラットフォーム事業：事業開発活動の推進

- アライアンス戦略の一環として、科学アドバイザーを務める教授陣を招いた自社Webinarを継続開催し、当期期間中に延べ232人を集客。これらの取り組みを通じて、CDA締結につなげる
- 新規契約獲得に向け、CDA締結済みの農薬企業含む国内外8社との契約交渉を継続し、事業開発を推進

パイプライン事業：自社開発パイプライン順調

- 自社パイプライン1については、非臨床試験に向けた動物実験のプロトコルを決定、年内に開始できる見込み
- 自社パイプライン2については、2026年7月に新規核酸医薬品に関する特許を出願
- 東京慈恵会医科大学病院との共同研究にて、ALS治療を対象とする新規核酸医薬品について新規データを取得

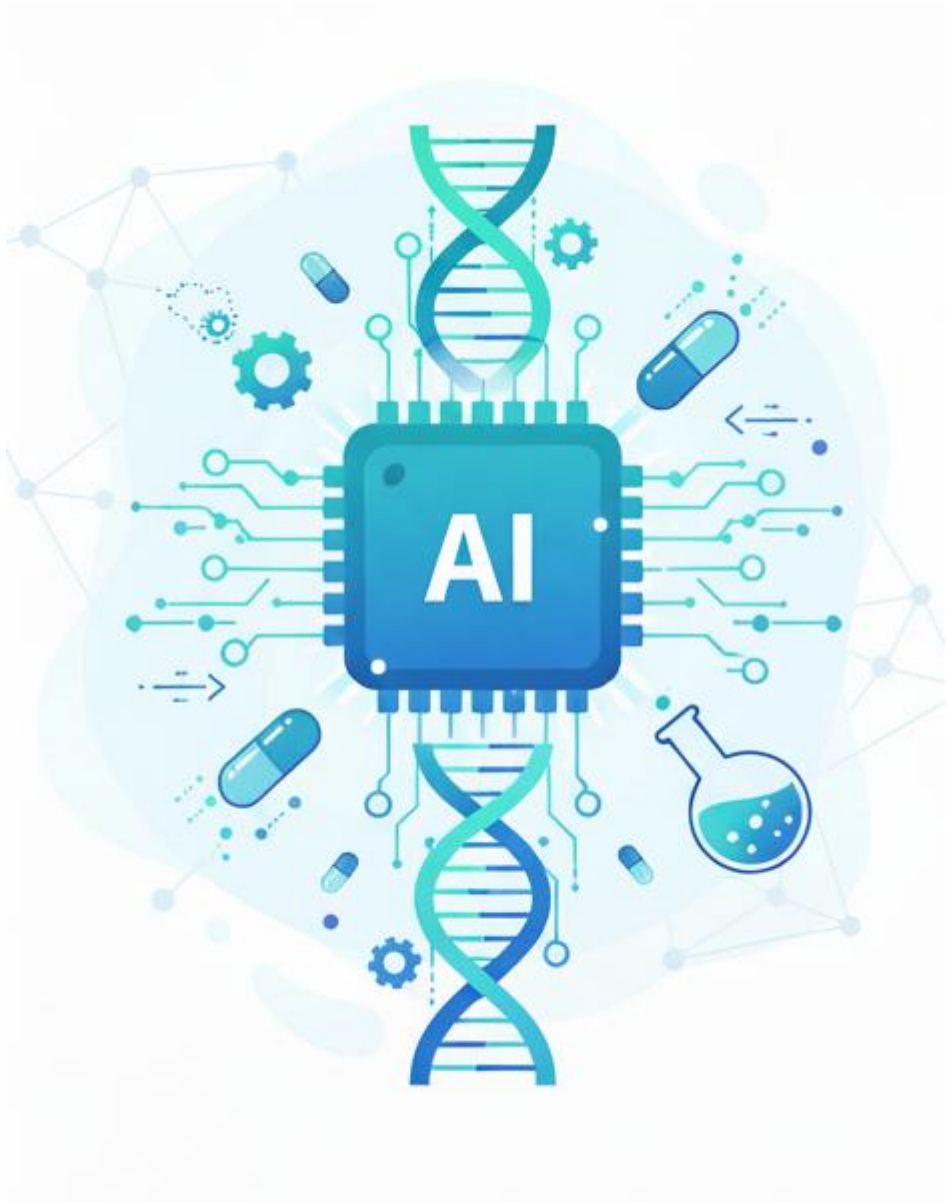
ドラッグデリバリーシステム事業（Perfusio®）：ロードマップ通り進捗

- PMDA開発前相談を8月28日に実施。開発前相談記録を踏まえ、2027年度の製造販売開始を目標に、必要な許認可取得に向け準備中
- Perfusio® 商標の登録が完了

2026年12月期 第3四半期決算の要約と通期業績予想の修正

- 事業収益は55百万円、事業費用は425百万円、当期純利益は△513百万円
- 研究開発では重要な進捗があった一方、共同研究の計画変更により、通期業績は当初想定を下回る見込み

©2026 Veritas In Silico Inc.



Contents

1 事業ハイライト

2 財務ハイライト

3 Appendix

©2026 Veritas In Silico Inc.



1 事業ハイライト

2 財務ハイライト

3 Appendix

©2026 Veritas In Silico Inc.

新たなRNAを標的とする自社パイプラインを創出

自社パイプライン2 / KPI項目

当社の独自技術 aibVISは、mRNAだけでなく、より広いRNAを創薬標的にできることを示した。
三菱ガス化学との共同研究から、がん治療を目指す核酸医薬品の特許共同出願に至った。

プレスリリース：2026.08.03 lncRNA 標的核酸医薬品に関する特許共同出願のお知らせ

従来の枠を超えRNA創薬の可能性をさらに拡大

従来

mRNA標的
創薬研究

▶

特許共同出願

今回の成果

lncRNA H19を
標的にASO
を創出

▶

将来の成長

RNA創薬の可能性
拡大

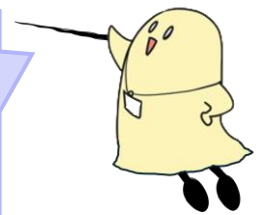
今回の3つのポイント

① **新しい創薬標的へ応用**
lncRNA H19を標的とする核酸医薬品を創出

② **共同研究開始後一年で特許出願まで進展**
三菱ガス化学と物質特許を共同出願 ※2026年度の自社パイプライン創出KPIを達成

③ **将来の治療法につながる可能性**
がん治療を目指し、将来的にはPerfusio®との組み合わせも視野

lncRNAとは？
細胞の中で「遺伝子の働き」を
調整するRNA。
病気との関係が分かってきており、
新しい薬の標的として注目されている。



©2026 Veritas In Silico Inc.

Perfusio®の実用化と事業体制構築を着実に進める

Perfusio®の最短実用化と業界への露出を並行推進し、事業の体制を整え、
2028年以降に自社核酸医薬品の臨床試験への利用を目指す。

プレスリリース：2025.12.15 当社独自のドラッグデリバリーシステム「Perfusio」特許査定及び権利化手続完了のお知らせ

現状のフェイズ

	2026年～2027年			2028年以降～
内部関連	完了 PMDA全般相談	完了 PMDA開発前相談	PMDA申請	2027年度内販売開始	DDSを用いた自社パイプライン臨床開発開始
内部関連	パートナー企業選定・契約			
外部関連	東京慈恵会医科大学 太田先生との共同研究		学会発表・論文発表	
外部関連	KOL探索・協働活動 国立がん研究センターと連携 完了		既存のカテーテルを利用した治療開始	

2026年9月末時点の具体的な進捗状況

PMDA*開発前相談実施完了
PMDA開発前相談を8月28日に実施。
必要な許認可取得に向け準備中

パートナー企業選定
候補複数社とCDAを締結し、対話を進行中

東京慈恵会医科大学との共同研究
自社パイプライン1に使用する可能性を
踏まえて動物実験の準備中

KOL探索・協働活動
国立がん研究センター 東病院
放射線診断科 医長 荒井先生に
科学アドバイザーとしてご就任いただいた

*PMDA（医薬品医療機器総合機構）：医薬品や医療機器の有効性、安全性、品質を確保するための独立行政法人。

※ 医療機器開発前相談：医療機器の開発段階において、PMDAに対し、開発方針や製造販売承認申請に必要な評価項目、臨床試験の要否などについて相談し、助言を受ける制度。

©2026 Veritas In Silico Inc.

Perfusio® 商標登録が完了し、承認申請・事業化に向けた準備を推進

当社が独自に開発してドラッグデリバリーシステム「Perfusio®」の商標登録が完了。
2027年度内の製造販売開始を目標に、承認申請準備と事業化体制の構築を進める。

独自ドラッグデリバリーシステム「Perfusio®」のブランドを保護し、事業化に向けた基盤を整備

01 Perfusio®の使い方

治療対象部位の動脈側・静脈側にカテーテルを挿入し、薬剤を送達しながら回収する独自のDDS

- **想定対象部位：上肢・下肢・腎臓・膀胱・子宮など**
- 核酸医薬品・他医薬品などへの応用可能性

02 現在の進捗

8月28日 PMDA開発前相談を実施

- 開発前相談記録が確定
- 動物実験等を要さず承認申請に進む想定を確認

複数社とCDAを締結し、対話を進行中

03 事業化に向けた見通し

承認申請に向けた準備

- 許認可取得に必要な準備、手続きを整理
- 開発段階を必要とせず承認申請（本相談）に入る

パートナー企業協業に向けた取り組み

- パートナー企業候補との議論
- パートナー企業候補への理解促進（ビジネスモデル・収益構造の説明や既存製品・技術の活用方法検討など）

PMDAとの開発前相談を踏まえてわかった課題とそれに対する当社の取り組み姿勢

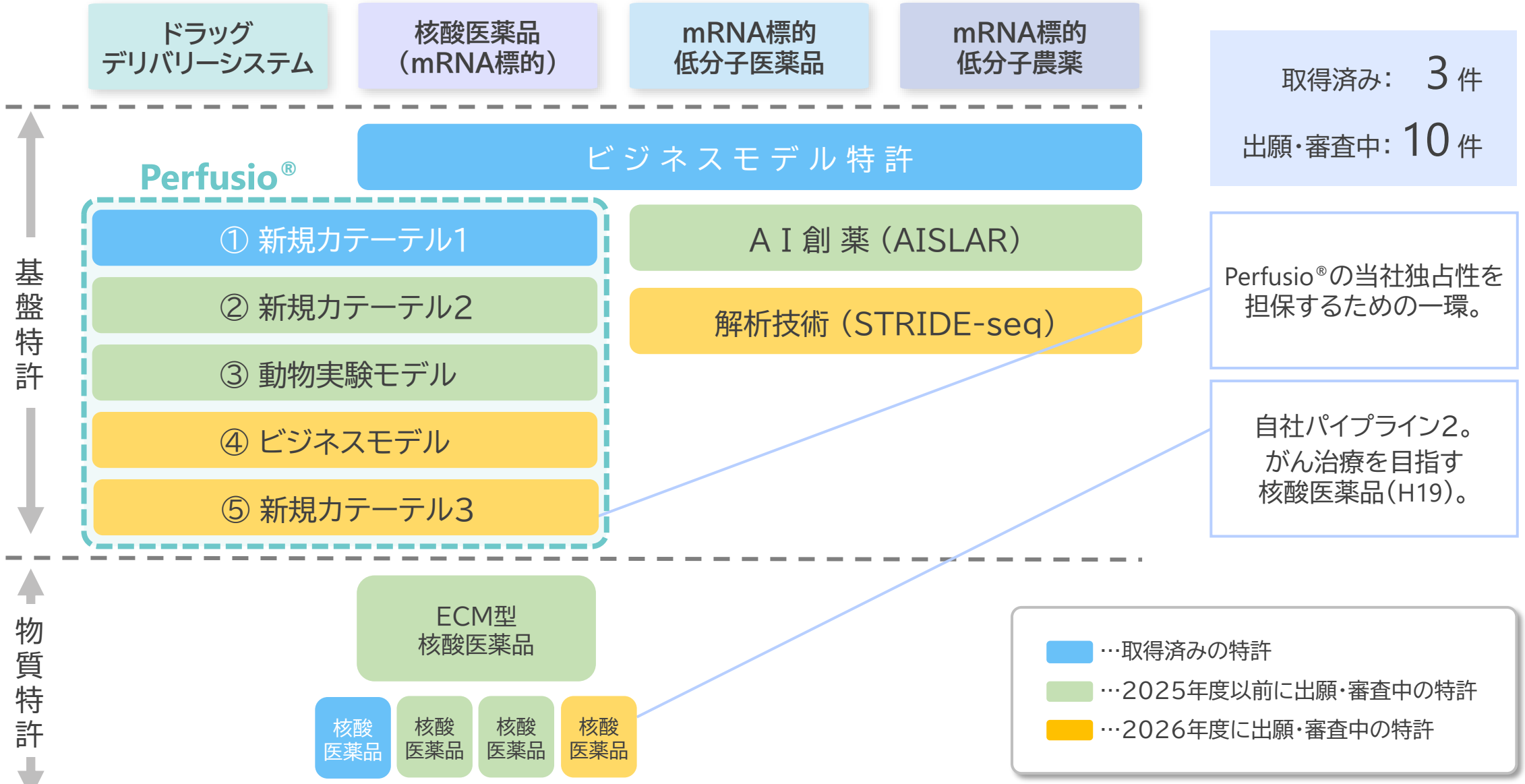
現状の論点：
パートナー企業との協業

▶

今後の取り組み：
権利を活用するライセンスビジネスの理解促進

©2026 Veritas In Silico Inc.

特許申請・取得の状況：競争優位性を支える知財戦略



©2026 Veritas In Silico Inc.

2026年12月期 第3四半期における重点施策の進捗

新規契約の獲得を通じた収益基盤の強化と、自社パイプライン創出による将来価値の創出を推進。
外部環境の変化にも対応しながら、事業領域の拡張と収益機会の最大化をしていく。

Measure 1
新規契約2件締結

新規契約2件締結をKPIとする

KPIのうち一つとして、11月 Syntaraとの　覚書締結。農薬企業を含む国内外8社との契約交渉を引き続き推進。

Measure 2
パイプライン2本目創出

自社パイプライン2の創出に向けた研究を進める

7月に新規核酸医薬品に関する特許を出願完了。

Measure 3
パイプライン1非臨床試験の開始

自社パイプライン1の非臨床試験（動物実験）を進める

非臨床試験に向けた動物実験のプロトコルを決定。年内に開始できる見込み。

Measure 4
DDS（ドラッグデリバリーシステム）の事業化開始

「Perfusio®」の事業化準備を進める

PMDA開発前相談を8月に実施。開発前相談記録を踏まえ、2027年度の製造販売開始を目標に、必要な許認可取得に向け準備中

Measure 5
新川崎研究所移転完了

新川崎研究所を移転させる

計画通り移転完了。4月より本格稼働開始。

©2026 Veritas In Silico Inc.



1 事業ハイライト

2 財務ハイライト

3 Appendix

©2026 Veritas In Silico Inc.

2026年12月期 第3四半期 業績概要

事業収益は研究支援金等55百万円を計上、事業費用は研究開発費192百万円を含む425百万円が発生。

（要約）損益計算書 （単位:百万円）

	2025/12期 第3四半期実績	2026/12期 第3四半期実績	増減額	増減率
事業収益	65	55	△10	△16%
事業費用	353	425	71	20%
営業利益	△287	△369	△81	―
営業外損益	4	4	0	―
経常利益	△283	△364	△81	―
当期純利益	△285	△513	△228	―

2026年度 第3四半期
主な内訳 （単位:百万円）

事業収益 うち
研究支援金等 55

事業費用 うち
研究開発費 192
販売費及び一般管理費 232

©2026 Veritas In Silico Inc.

四半期業績の推移(FY2024Q1~FY2026Q3)

(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1	FY2025 Q2	FY2025 Q3	FY2025 Q4	FY2026 Q1	FY2026 Q2	FY2026 Q3
事業収益	32	83	49	29	24	19	22	25	17	19	**18**
事業費用	97	85	104	120	105	124	124	134	139	144	**141**
営業利益	△65	△1	△54	△91	△81	△105	△101	△108	△122	△124	**△123**
営業外損益	△22	0	0	1	1	1	1	1	2	1	**1**
経常利益	△87	△1	△54	△90	△79	△103	△100	△107	△120	△123	**△121**
当期純利益	△87	△2	△55	△90	△79	△104	△101	△140	△256	△130	**△127**

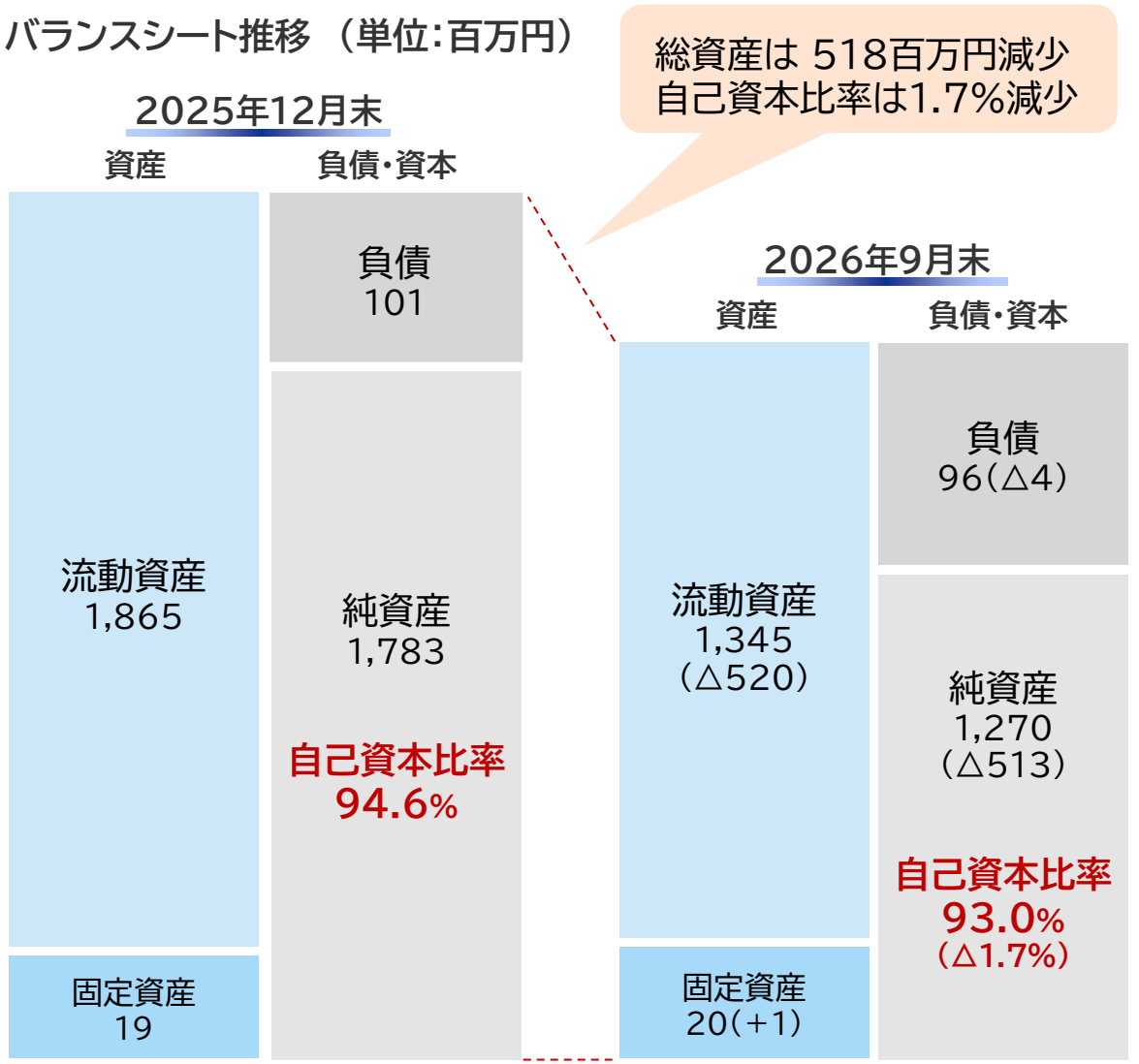
©2026 Veritas In Silico Inc.

2026年12月期 第3四半期末 財務状況の推移

貸借対照表の推移 （単位：百万円）

	2025年度 期末	2026年度 第3四半期末
現金及び預金	1,825	1,278
流動資産合計	**1,865**	**1,345**
有形固定資産	0	0
固定資産合計	**19**	**20**
資産合計	**1,884**	**1,366**
負債合計	**101**	**96**
資本金	10	10
純資産合計	**1,783**	**1,270**
負債・純資産合計	1,884	1,366

バランスシート推移 （単位：百万円）



※本図のバランスシート項目の割合は概念的なイメージであり、正確な数値を反映したものではない。

©2026 Veritas In Silico Inc.

2026年12月期 通期業績予想の修正について

パートナー企業と実施している共同創薬研究にて相手方事情による研究計画の変更が発生。これに伴い、業績予想に織り込んでいたマイルストーン収入（見込額40百万円）の計上が見込めなくなり、業績予想の修正に至った。
また減損損失187百万円の発生により、当期純損失の幅が当初の業績予想より133百万円拡大する見通し。

（要約）損益計算書 （単位：百万円）

	2026/12期 修正前	2026/12期 修正後	増減額	増減率（%）
事業収益	113	**70**	△ 43	△ 37.6
事業費用	682	**586**	△ 95	△ 14.1
営業利益	△ 569	**△ 515**	53	—
営業外損益	4	**6**	1	27.4
経常利益	△ 564	**△ 509**	54	—
当期純利益	△ 567	**△ 700**	△ 133	—

事業収益の修正

共同創薬研究において、パートナー企業側の事情による研究計画の変更が発生しました。これに伴い、当初想定していた**マイルストーン収入の発生が見込めない状況**となりました。

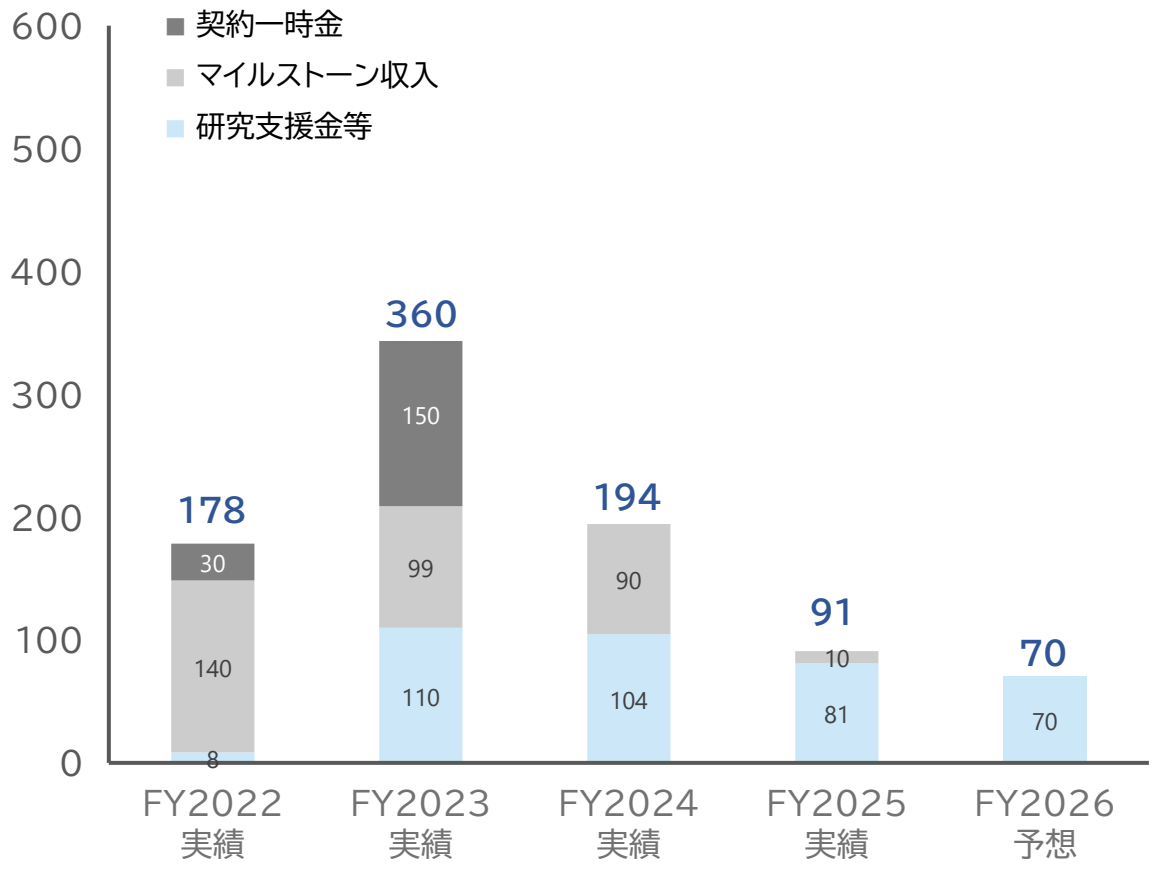
減損損失の発生

2026年度に使用開始した建物附属設備や工具器具備品にかかる減損処理による特別損失187百万円が発生、当期純損失は当初の業績予想より133百万円拡大する見通しです。

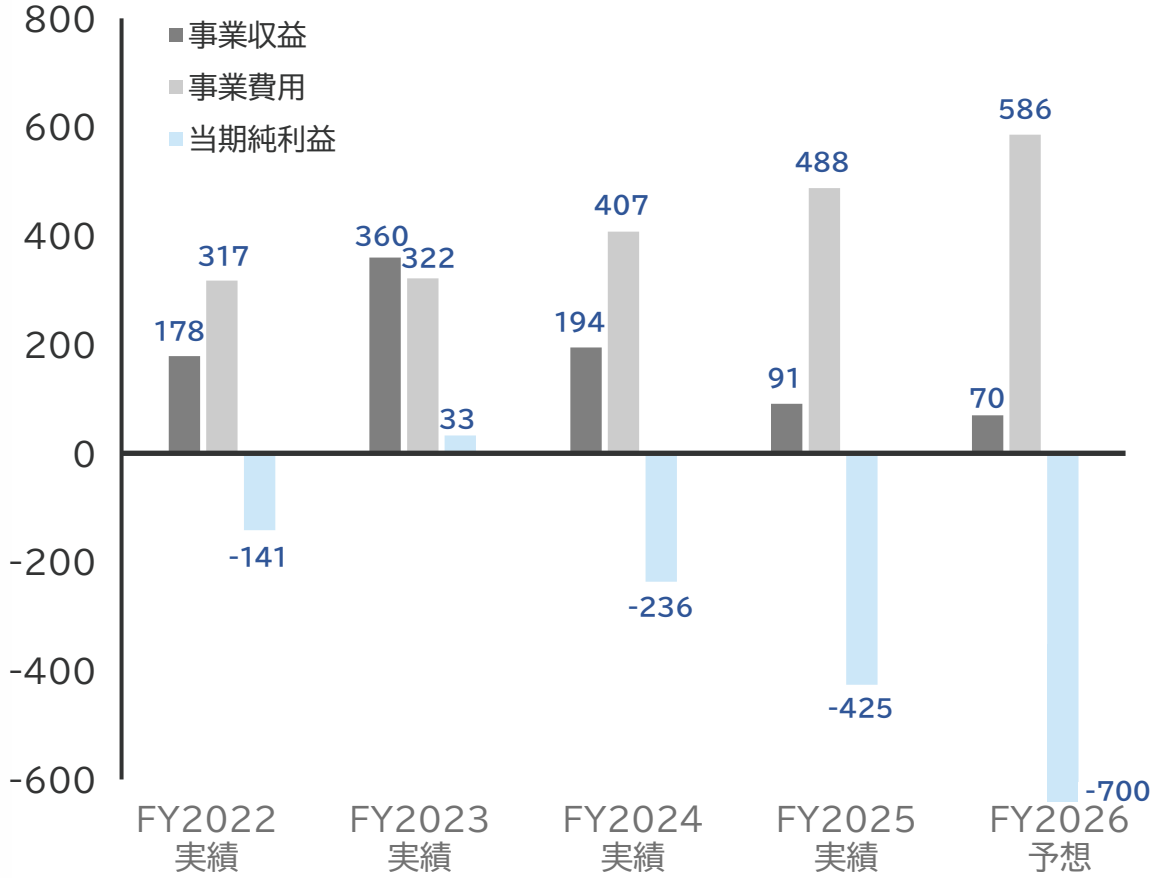
©2026 Veritas In Silico Inc.

各年度 事業収益と収支の実績および業績予想

（単位：百万円）



（単位：百万円）



©2026 Veritas In Silico Inc.

理念

mRNA標的創薬で
希望に満ちたあたたかい社会の実現を



創薬のブレイクスルーを実現し、
スペシャリティファーマ
を目指す



どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように

©2026 Veritas In Silico Inc.



Veritas In Silico

©2026 Veritas In Silico Inc.



Appendix

©2026 Veritas In Silico Inc.

VISの情報源

Webサイト：株式会社 Veritas In Silico

Note：中村 慎吾｜Veritas In Silico｜note

X：株式会社Veritas In Silico【公式】(@VeritasInSilico) / X

YouTube: VeritasInSilico - YouTube

LinkedIn：Veritas In Silico Inc.｜LinkedIn

アナリストレポート：Fisco 企業調査レポート 2026年5月8日

Webサイト

Note

X

YouTube

LinkedIn

©2026 Veritas In Silico Inc.

免責事項

本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。
そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

なお本資料は原則として、期末決算発表の時期を目途に毎年更新し、開示する予定です。

お問合せ先:
株式会社 Veritas In Silico
経営企画部　広報IR担当
ir@veritasinsilico.com

©2026 Veritas In Silico Inc.



Veritas In Silico